



こっか しげる
小塚 茂さん
(東みずほ台在住)

富士見市コミュニティ大学
運営理事長

あなたの地域進出を
サポートします

富士見市コミュニティ大学は、平成19年に開校してから今年の11月1日で創立10周年を迎えます。

市、市教育委員会、富士見市社会福祉協議会からの後援をいただきながら多くの学生とともに、月に2回、安心安全や健康などさまざまな分野について見識を広げるための一般教養講座、また仲間たちと趣味を楽しむクラブ活動などを行っています。

私は当大学の前身であるこうれい大学で、自治会長を経験させていただきました。仲間の学習意欲を肌で感じ、生涯学習の必要性を再認識しました。そうした中、平成18年度にこうれい大学が廃止されることを受け、富士見市の高齢者の生涯学習の灯を継続させようと、こ



コミュニティ大学の1コマ (落語鑑賞)

うれい大学の関係有志によって「富士見市コミュニティ大学」を立ち上げました。
当大学では、生涯学習を通して学生同士と絆を深め合い、ともに学び合うだけでなく、学んだことを家庭や地域活動にも活かしていただくことを大切にしています。
このため、「あなたの地域進出をサポート」をスローガンに、22人の運営役員は「ボランティア精神とチームワーク」で日々活動しています。私も理事長として、自分の人生経験を活かし、当大学の目的である「高齢者の生きがい追求と地域貢献」につながる和やかに楽しい学習・運営を心がけていきたいと思っています。

手話で楽しもう

問合せ/障がい福祉課 ☎327

聴こえない人が情報を得る工夫と伝える配慮

日常生活の中には「音」で情報を伝えるものがたくさんあります。来訪者を知らせるドアチャイムや目覚まし時計の音、ガスの消し忘れを知らせる音など、さまざまな音による情報を頼りに生活をしています。しかし、聴覚障がい者は、こうした音による情報は得られません。

聴覚障がい者は音でなく、ほかの方法で情報を得る工夫をしています。例えば、目覚まし時計の音や赤ちゃんの泣き声、ドアチャイムを光や振動に変えて伝える機器を使ったり、また、トイレに入っている人にノックする時や会議を始める時には、電灯を点滅させて知らせるなどしています。ほかにも、ろう学校ではチャイムや危険を知らせる音の代わりに、青色や黄色などの光を点滅させて知らせる機器(回転灯やフラッシュベル)を使っているところもあります。

聴覚障がい者に呼びかける時などは「聴こえない」という状況を想像し、相手がわかりやすいよう

に、肩をたたく、手招きをする、手を振るなど、ちょっとした工夫をお願いします。

※下記に掲載の写真から、AR動画が見られます。AR動画の利用方法など詳しくは、市ホームページをご覧ください。また、市ホームページでも動画が見られます。



～ 今月の手話 ～



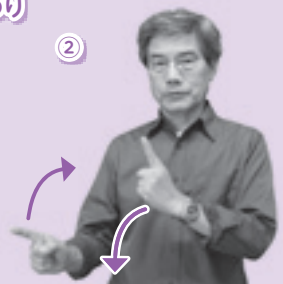
秋



(風が顔の横をそよぐように)



まわり



(太鼓をたたくように)

※①②を繰り返す